木質化社会考える

浜松でフォーラム

木質化を通じて持続的な社会を考える「木質フォーラム 浜松国際会議」（同実行委主催）が2日、浜松市中区の静岡文化芸術大で始まった。3日まで、国内と東南アジアの建築家、研究者らがシンポジウムや専門家会議で意見を交わす。

初日は、県草薙総合運動場体育館このはなアリーナ（静岡市駿河区）を設計した建築家内藤広さんが基調講演した。建築物などさまざまな物に木材を使う動きが進む中で、内藤さんは「木を使えばいいということではない。適材適所に使い、木と向き合うことが大事」と指摘した。

木が生えている自然に目を向ける必要性を述べ、「木に無理をさせず、ありがたく使うことが本当の『木質化』ではないか」と問い掛けた。このはなアリーナの設計については「柔らかい木で耐震強化を持たせることが難しかった」と振り返った。

天竜林業研究会の熊平智司さんによる活動報告なども行われた。

木質化について語る内藤広さん＝２日午後、浜松市中区の静岡文化芸術大

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます